

「計画」

大津市立真野中学校

令和8年度 我が校の学び力向上策

【県目標】第Ⅲ期学び力向上滋養プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

○第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

○学校経営の基本方針

誰もが居心地のいい温かな学校「生徒ファースト」の学校づくり

- ・安心安全な学校
- ・迅速で積極的な情報提供
- ・地域とともにある教育実践
- ・授業づくり・人づくり・集団づくりの視点で実践を行う

○校内研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの充実による授業づくり ー学び合いとICTを活用した学習活動を通してー

【現状と課題】

○視点1

(1)「子どもが学びを実感する授業づくり」を目指し、「読み解く力」の視点を踏まえ、協働的な学び（学び合い）の推進やICTの効果的な活用を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善を継続させる必要がある。

(2)授業や朝学習等でタブレット端末の活用は進んでいる。一方で、学習に関係のない場面で使用したり、誤った使い方による生徒指導上のトラブルが起きることがあるため、活用のルールや情報モラル教育の徹底を図る必要がある。

○視点2 人権教育・道徳教育の充実を図るとともに、「生徒指導の3機能（自己存在感を高める・自己決定の場をつくる・共感的であたたかな人間関係を育成する）」を意識し、学びに向かう学習集団づくりに取り組む必要がある。

○視点3 経験年数10年未満の若手教員の割合が高まってきており、人材育成のために校内OJT組織を中心に、教員相互の指導力向上に努める必要がある。また、学校運営協議会が発足4年目を迎え、家庭・地域との協働による学校教育環境の整備により一層取り組んでいく。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例)県学びのアンケート（児童生徒）「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」**肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①仲間と協働して課題解決に取り組む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。	①協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用を含む）【市学校教育評価】→肯定評価80%以上
②タブレット端末を効果的に活用した教育を推進する。	②コンピューターやタブレットなどのICT機器を使うことは、学習の役に立つと思いますか【（児童生徒向け）学びのアンケート（県）】→肯定評価85%以上
③子ども一人ひとりの学びの状況に応じた、個別最適な支援に努める。	③授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。【児童生徒質問紙】→肯定評価85%以上

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①「生徒指導の3機能」を意識し、あたたかな人間関係、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践する。	①支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践【市学校教育評価】→肯定評価80%以上
②人権教育・道徳教育の充実を図り、子どもの個性や多様性を認め、かけがえのない存在として互いを尊重する教育を推進する。	②道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか【児童生徒質問紙】→肯定評価85%以上

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①校内のOJT組織の充実を図り、教員相互の指導力向上を目指す。	①教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上【市学校教育評価】→肯定評価80%以上
②学校・家庭・地域の協働の充実を図り、子どもを育てる環境づくりを推進する。	②保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用【市学校教育評価】→肯定評価80%以上

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ①4月当初の職員会議において、学校長の学校経営方針や研究主任の「今年度の校内研究」の提案を通じて、「学び力向上」に向けた手立てや時期等について共通理解を図った。
- ②学期に1回、講師を招聘して授業研究会を計画・実施する。また、夏休み等には校内研究についての研修をおこない、本校の現状と課題を全教職員で共通理解するとともに、研究主題に関する講座を開催する。
- ③学期に1回、年間計3回、授業公開・参観強化週間を設定し、授業力の向上を図る。
- ④年間を通して、全教員が一回以上の授業公開を行う。
- ⑤年度末に取り組みの検証を行い、改善点も含んだ次年度への提言を行う。